

教育活動で新聞を生かして使うためには、たとえ1～2分という短い時間であっても、毎日、新聞記事に触れることが大事です。朝の会（短学活）で学級担任が「こんな記事が載っていたよ」とか『天声人語』にこんなことが書かれていた」…などと話すだけでもよいでしょう。

基礎の学習は繰り返しと継続が大事ですが、新聞読みについても言えることです。とくに小学校低学年では、範読してあげるとより効果が上がります。高学年や中学校では、増し刷りして配ってあげるのもよいです。

さて、日々、新聞を読んだり、活用したりするためには、紙面の決まった場所に毎日載っている天声人語などのコラムや4コマ漫画などを使うとよいですが、この2つについては、次回以降で取り上げますので、別の例を挙げます。それは、見出しを「意味のよくわかる文に直す」ことです。

例えば9月14日（土）の朝日新聞東京本社発行朝刊最終版のスポーツ面には〈吉川、強心臓デビュー〉という2段見出しの記事が載っていました。本文を読み、言葉などを補ってみましょう。「中日の吉川選手がプロ初打席で強心臓の初ヒット・初打点を挙げ、デビューを飾った」というようになります。「強心臓」を別の言葉に変えてもよいでしょう。

『先生のお勧め記事』というタイトルで、その日の朝刊から記事を拡大コピーし、勧める理由を簡単に付けて、廊下の掲示板に毎日張り出すとよいでしょう。まずは全国紙の朝日、毎日、読売と地元紙に共通して取り上げられている記事を中心にしてください。

（鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問）